

目次

- 地域医療・総合相談センター副センター長を拝命しました
- 地域医療連携
- PICK UP!
- 研修・セミナーのご案内

地域医療・総合相談センター 副センター長を拝命しました

地域医療・総合相談センター 副センター長 山田 健

たけし



平成28年4月より、地域医療・総合相談センター副センター長を兼務することになりました、呼吸器外科部長の山田です。これまでも、肺がん地域連携パスで地域の先生方には大変お世話になってまいりました。5大がんのパスの他、脳卒中、大腿骨頸部骨折、糖尿病、心筋梗塞などのパスも運用されており、在宅呼吸ケア地域連携の会や在宅緩和ケアなど地域連携の重要性を感じております。

高齢化が進む現在、厚生労働省は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目標に地域包括ケアシステムの構築を推進しています。今後、ますます地域連携の重要性は増してまいります。診断から終末期までのスムーズな連携体制を構築すべくお役に立てれば幸いです。引き続き、よろしく願いいたします。

骨粗鬆症外来と地域連携

整形外科 金野 恵美

◆ 転倒・骨折の予防が重要です

高齢者の転倒による骨折(大腿骨近位部、脊椎圧迫、上腕骨近位部、橈骨遠位端)は、骨粗鬆症が基盤にある方に生じやすい骨折です。

骨粗鬆症の有病率は50代から徐々に上昇し、60代女性では約30%、80代女性では約50%と、加齢とともに増加しています。また、大腿骨近位部骨折患者も増え続けている状況で(日本全国調査)、当院でも大腿骨近位部骨折患者は増加傾向にあります。**転倒・骨折**により、介護が必要になる方は要介護者全体の**約15%**を占めています。また、骨折発生後の死亡相対リスクは、大腿骨頸部骨折では6.7倍、椎体骨折では8.6倍ともいわれており、死亡につながる骨折でもあります。

しかしながら、当院の大腿骨近位部骨折患者への術後の骨粗鬆症治療介入率は約20%です。術後は1~2週間で施設入所や転院する方がほとんどで、実際には治療介入がとても厳しい状況にあります。こういった問題を解消するためには、地域の先生方のご協力が必要不可欠だと考えています。



◆ 骨粗鬆症外来にご紹介ください

骨粗鬆症になっていても、無症状のまま進行していく方が大多数です。ご多忙な診療の中とは存じますがぜひ、「この患者さんは骨粗鬆症患者では？」という眼で患者さんを診ていただきたいです。そして、少しでも疑わしい場合は、当院の骨粗鬆症外来にご紹介ください。

骨粗鬆症外来は紹介専用外来で、Uターンシステムを基本としています。当院での定期受診以外は、かかりつけ医での継続処方や経過フォローアップをお願いしています。骨粗鬆症外来では、問診および検査結果から治療の必要性や薬剤の選択、治療効果の判定などを行い、ご依頼の内容で患者さんに合わせた診療をいたします。

昨年度より、骨粗鬆症マネージャー(現在、看護師1名・薬剤師1名が取得)を中心に、多職種で構成する**骨粗鬆症リエゾンチーム**を発足し、患者教育・啓蒙活動の場として**骨粗鬆症教室**も開催してまいりました。現在は骨粗鬆症地域連携パスの作成を検討しており、受診や治療が分かりやすくなるシステムの構築に向けて検討を進めています。

超高齢社会においては、骨折してから対策をするのではなく、骨折する前に骨粗鬆症治療を開始することが重要だと考えています。地域の皆さまがより健康に過ごせるように、また地域連携に貢献できるように骨粗鬆症リエゾンチームで取り組んでまいります。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。



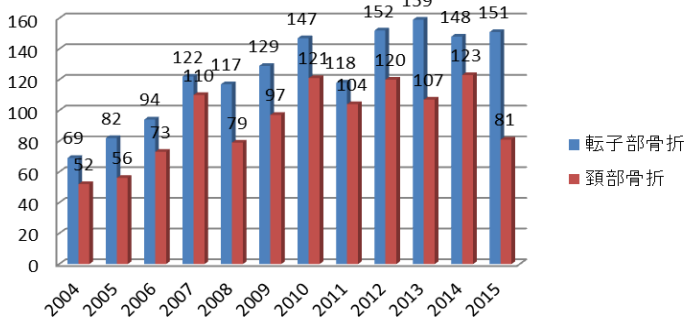
骨粗鬆症外来へのご紹介は **地域連携室** まで

《外来予約や骨密度検査などを手配いたします》

TEL. 0566-25-8304



大腿骨近位部骨折患者の推移



以下に該当される場合は 骨粗鬆症外来への紹介をご検討ください

- 50歳以上の女性で、閉経している
- 70歳以上の男性
- 骨折したことがある
- 身長が2cm以上縮んだ
- 糖尿病または腎疾患である
- ステロイドを使用している
- 骨密度が気になっている
- SQ法で椎体骨折が認められた



◆ PICK UP ! ◆

在宅患者さんの訪問薬剤管理指導を始めます

在宅医療における薬への不安や疑問に応えられるよう、平成28年4月より地域連携室に薬剤師が配置されました。また、薬剤部では訪問薬剤グループを立ち上げ、入院から在宅へ、在宅から入院へ移行する際に安全な薬物治療を継続できるような環境づくりに取り組んでまいります。

病状が重い、歩行が困難、または認知症が進んでいるなどの理由から、通院が困難となり在宅で療養している患者さんが増加しています。このような患者さんで、薬のことでお困りの方の居宅を薬剤師が訪問し、薬学的管理および指導を行うことを「**訪問薬剤管理指導**」といいます。

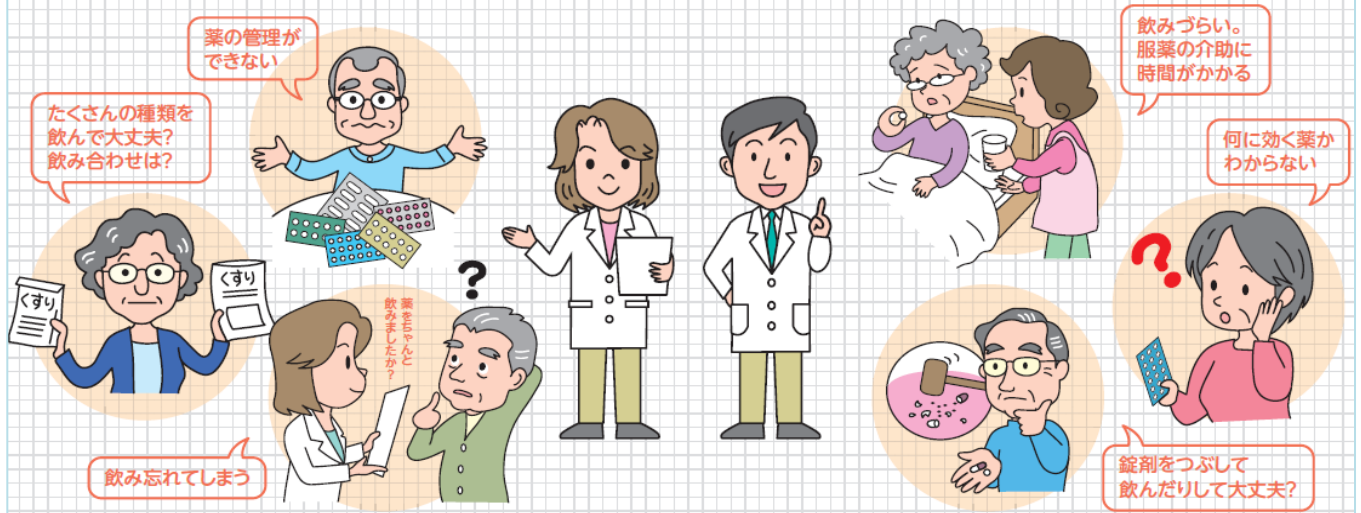
訪問薬剤管理指導を行う際は、医師や訪問看護師、介護ヘルパー、ケアマネジャーの皆さんと情報を共有し、多職種が連携して在宅医療をサポートいたします。

■ 訪問薬剤管理指導の対象となる方の一例

- ① 薬局で薬をもらって帰るのが大変
- ② 薬の整理ができない
- ③ 薬が飲みづらい（飲んでくれない）
- ④ ついつい薬を飲み忘れてしまう
- ⑤ 何に効く薬かわからない
- ⑥ 一日中ウトウトしている、または味が分からなくなった



薬に対する不安、疑問 薬剤師がお応えします。



■ 当院の訪問薬剤管理指導を受けられる方 <保険適応>

- ・ 主治医が当院の医師であり、当院で薬を受け取っている方
 - ・ 医師に訪問薬剤管理が必要と判断された方で、補助や介助を必要とし、一人で通院できない方
- ※ 保険薬局から既に薬剤師の訪問がある方は、薬局と連携してサポートいたします。

上記以外の方でも、お薬のことで困っていることや疑問、不安など、何でもご相談ください

刈谷豊田総合病院 地域連携室
(担当: 杉浦)

TEL. 0566-25-8304
mail. mitsuru.sugiura@toyota-kai.or.jp

研修・セミナーのご案内

● 勇美記念財団助成による病院での在宅医療連携研修会

- 【テーマ】 急性期病院と在宅医療現場の連携
【日時】 平成28年 5月21日(土) 午後2時30分～5時
【会場】 診療棟5階 教育研修センター
【対象者】 病院従事者・在宅ケア従事者
【問い合わせ】 0566-25-8304 <地域連携室>

● 訪問看護呼吸ケアケーススタディ〔予定〕

- 【日時】 平成28年 6月3日(金) 午後4時～6時
平成28年 8月5日(金) 午後4時～6時
【会場】 診療棟3階 内科外来
【対象者】 在宅呼吸ケア症例を担当中の訪問看護ステーション、介護系スタッフの方など
【問い合わせ】 0566-25-8304 <地域連携室>
※施設ごとに開催時間が異なりますので、新たに参加を希望される方は事前にご連絡ください。

● 刈谷連携キャンパス(KRC)

- 【テーマ】 「薬のギモンにお答えします」
【日時】 平成28年 6月25日(土) 午後2時30分～4時
【会場】 診療棟5階 第1・2会議室
【対象者】 医療・介護・福祉関係者
【問い合わせ】 0566-25-8025 <リハビリテーション科>

● 訪問看護呼吸ケア勉強会

- 肺機能が弱い患者さんや在宅酸素療法を行っている患者さんのより良い訪問看護ケアのための勉強会
【日時】 平成28年 7月1日(金) 午後6時～7時
【会場】 診療棟5階 第4会議室
【対象者】 主に在宅呼吸ケアに関わる訪問看護ステーションのスタッフ
【問い合わせ】 0566-25-8304 <地域連携室>

● 在宅呼吸ケア地域連携の会

- 肺機能が弱い患者さんや在宅酸素療法を行っている患者さんに対して、より良い在宅ケアサービスが多職種で提供できるように地域連携を深めていくための会
【日時】 平成28年 7月30日(土) 午前10時～12時
【会場】 診療棟5階 第1・2会議室
【対象者】 在宅呼吸ケアに関わる医療・介護スタッフ
【問い合わせ】 0566-25-8304 <地域連携室>

● がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会(PEACE project)

- がん診療に携わる2次医療圏内の医師を対象に、緩和ケアの基本事項について講義・グループワーク・ロールプレイの3つの形式で研修を行います。2日間の研修修了者には、厚生労働省の修了証が発行されます。
【日時】 平成28年9月18日(日)・19日(月・祝)
いずれも午前9時～午後5時
【会場】 診療棟5階 第1・2会議室
【対象者】 がん診療に携わる2次医療圏内の医師(各回定員24名) ※要事前申込
◀ 申込方法など詳細はホームページでご案内いたします ▶